

# 人権なら

2016年3月1日

第63号

●ひと・まち・生き生き

NPOなら人権情報センター

## 「3・11」の教訓はどこへ

### 絶対に風化させてはいけない

「3・11」を迎える。この時期になると、何周年だとしてメディアが大きく報道する。だが、あの惨事もすでに日常から忘却されている。わずか5年しか経っていないのに、だ。現地はいま、どうなっているのか。復興は進展しているのか。なかなか全体像が見えない。

東北は今、居住人口が大きく減少したという。産業も元に戻っていない。復興工事などでゼネコン業者が儲かっているに過ぎない。尊い犠牲者を出し、さらに関連死とされる痛ましい出来事が後を絶たない。

福島原発事故はいまだ収束していない。この先、途方もない歳月を要する。にもかかわらず、人々からは危機感が薄れている。政府や東京電力は補償の打ち切りを狙い、帰還を促している。放射線被害は大したことがないとの考えだ。

### 原発再稼働に躍起となる政府・電力会社

その典型が丸川珠代環境相の暴言だ。除染などによる年間の追加被曝線量の長期目標について「何の科学的根拠もなく、時の環境大臣が1ミリシーベルトまで下げた」「その結果、帰れるはずのところにもまだに帰れない人がいる」。大嘘を吐き、被害を薄めている。

政府や電力会社は事故の検証も行わず、責任も明らかにせず、原発再稼働に躍起となっている。鹿児島・川内原発の2基に続き、福井・高浜原発も2基再稼働させた。このあとも伊方原発、玄海原発など、次々と再稼働を目論んでいる。

40年と定められていた運転期間も20年の延長が可能だとする。九州電力なんぞは、動き出せばこちらのものとはばかりに免震棟計画を引っ込めた。原発推進

者は、原発は日本のベースロード電源だとか、二酸化炭素を排出しないので環境に優しいだとか、火力発電は原油の輸入で国富が流出するだとか、とのたまっている。



除染作業で出たごみが山積み

### 復興の展望、事故の収束に光明が見えない

3・11の教訓はどこへやら。この間、この国にどんな変化があったのか。安倍首相が原発事故は「アンダー・コントロール」だと言って、東京五輪を招致した。これで原発事故は取るに足らないほどの問題とされた。世間はだんだんと関心を失い、忘れていく。復興の展望にも、原発事故の収束にも光明が見えてこない。

今なお10万人以上が故郷を追われている。このことに何の責任も感ぜず、反省もせず、ただ資本の発展だけのために振る舞う。辺野古新基地建設をめぐる動きもそうだが、犠牲を組み込みながら進めている。

### 東北の真の再生こそが日本にとって大切

「東北は東京の植民地」だと言われる。労働力と食糧とエネルギーを供給し、原発の危険も引き受けてきた。東北が復興したところで、それが繰り返される。

農林漁業といった海や山との関わりを生業にする人々は、自分たちが何によって生かされてきたのか、をよく認識している。津波は愛する人や財産や多くのものを奪った。だが、人々にとって海と生きること、山と生きるとはかけがえのない喜びなのだ。400キロに及ぶ防潮堤の建設でこれを奪ってはならない。

## 戦火の子どもたち

### 磯城郡人推協が西谷文和さんを招き研修会

2015年度磯城郡じんけん研修会が2月7日、三宅町文化ホールであった。フリージャーナリストの西谷文和さんが「戦火の子どもたち—アフガン・シリア・イラクを訪問し学んだこと—」をテーマに講演した＝写真。



松田佳延・磯城郡人権教育推進連絡協議会会長が「私たちは平和を大切にすること、戦争を許さないことを強く願っている」とあいさつした。

西谷さんは「アフガニスタンの戦争は35年間続いている」と述べ、首都カブールの映像を流した。検問所や、上空からテロリストを監視する米軍の飛行船…。その町で車椅子の親子に出会う。「女性はロケット弾を浴び両足を失った。20歳のとき、結婚してすぐだった」「車椅子を押す10歳の娘。父親は2年前に自爆テロに巻き込まれ亡くなった」とナレーション。

### 劣化ウラン弾の人体への計り知れない影響

避難キャンプ。そして病院。「先天性異常」や「白血病」の子どもたちが多く入院している。「長引く戦争の影響で生まれてくる子どもたちに異変が起きている」「米軍はアフガニスタンでも、殺傷能力の高い劣化ウラン弾を使ってきた。放射物質の劣化ウランは、人体への影響が計り知れない。



生まれてくる子ども6人に1人が誕生日を迎える前に亡くなっている」「劣化ウラン弾は湾岸戦争以降、25年間使用され続けている」。

続いて、「現在、世界中で最も多くの人々の命が奪われている国」シリアの映像を流した。自由シリア軍(非ムスリム同胞団系)の支配地域、緊張の中、車はアカラバート難民キャンプに。そこで松葉杖の子どもと

出会う。モハメド君(5歳＝写真)はシリア北西部のイドリブ出身。「アサド軍の空爆で父親と自宅をなくした。彼は左足を撃たれ2度手術を受けた」。

20分ほど走り、アルラハマキャンプに着く。このテント群は、主に未亡人・孤児たちが生活している。話してくれた女性(写真)は、狭いビニールシートに昨日は4人で眠った。夜は氷点下まで気温が下がる。次の日は吹雪になった。日本からの支援で購入した毛布150枚を配布した。



### 空爆でたくさんの人が殺され、街は破壊

トルコからシリア・アレッポへ潜入取材する。自由シリア軍の支配地域で、アサド政府軍は撤退している。国境には自由シリアの国旗がはためく。「空爆が激しく、1日50人～100人が殺されている」。スカッドミサイルや空爆で破壊された街(写真)を通り、アレッポへ。

数人の若い兵士たちが路地を歩く姿が映し出される。石畳の続く路地の先には世界遺産のアレッポ城。城との距離は100メートル。「アッラー、アクバル！(神は偉大なり)」と叫び、カラシニコフ銃をぶっ放す。次の兵士がこれに続く…。城からも狭い路地めがけて銃弾が飛び込んでくる。「チューン」。鋭い金属音が響く。体がこわばってしまう。「高校生くらいの兵士もいた。いつの時代も前線で闘うのは若者だ」。



さらに、「イスラム国の正体を暴く」をテーマにした映像のほか、「シャルリーエブド事件」(2015年1月7日、パリにある「週刊新聞社」襲撃事件)を受け、オランダ大統領が「戦争を宣言」し、40カ国の首脳がパリを埋め尽くすデモ隊の先頭を歩く場面が世界に配信した映像を示す。だが、この先頭を歩く場面は「ウソ」で、うまく編集されていたことを明かした。

最後に、上原大洋・副会長があいさつした。

## 運動の成果と課題を確認

### 「精神障害者の福祉医療をめぐる」シンポ

精神障害者の福祉医療を実現する運動の「成果」と「課題」～つなげよう未来へ、をテーマにした集会在2

月19日、県文化会館であった。集会では、奥田和男・共



同代表の経過報告、当事者・家族の報告、シンポジウムなどがあつた。精神障害者の福祉医療を実現する奈良県会議(略称・実現会議)が主催した。

実現会議は2012年9月24日の発足以降、実態調査や、当事者・家族・支援者延べ400人が参加した県内39市町村キャラバン、2013年9月に県議会への請願書提出を実施してきた。県は2014年2月、予算発表(精神障害者への「全科医療費助成」。手帳1級・2級所持者対象)。その後、27町村で実施が決まり、12市で2級への対象者拡大に動き出した。

### 当事者・家族・支援者の共同が実現した

シンポジウム「運動の成果と課題」では、栃本一弥さん(共同代表・当事者)・三島利子さん(家族)・刀根洋二さん(事務局長)・堀場洋二さん(コーディネーター)・名古屋市精神障害者家族会連合会会長)がそれぞれ発言した。



当事者・家族・支援のそれぞれの立場から「県での運動が全国に先駆け、大きな成果を実現した」「3級が対象外にされた」「当事者・家族・支援者の共同が実現した」「私たちも当事者なんだという理解が深まった」などと語った。

最後に、「福祉医療実現運動を振り返り、今後につなぐ声明」を全体で確認した。

## 飲酒と健康を考える

### アルコール依存症は病気。必ず回復できる

アルコール関連問題県民セミナー「飲酒と健康を考える」が2月25日、天理市文化センターであった。

新井和彦・奈良断酒連合会会長さんが「アルコール依存症は病気です。治療を受ければ必ず回復できる」「毎日3合以上飲酒するハイリスクの方は県内に約1万人いる。しかし、500人くらいしか専門病院に行っていない」「なぜ、つながらないのか？ それは社会的偏見があるからだ」と述べた＝写真。



続いて、県医療政策部保健予防課・村田清さんがあいさつ。若草断酒会の男性会員と家族の方が体験談を語った。現在、52歳の男性は、45歳の頃から飲酒の影響が出始めたが、仕事も家族との関係もつぶしてしまうまで専門病院・断酒会につながらなかったこと。そこで初めて「病気」の自覚ができたこと。「苦しかったこと、悲しかったことを思い出すことが、飲酒欲求の抑止力になっている」と話した。

### 断酒会とつながり、アルコール依存症を克服

家族の立場から話をした方は、長い間、弟の「性格の問題」と考えてきた。だが、専門病院・精神病院への入院を経て断酒会とつながったこと。「断酒はまだ5ヵ月ですけど、断酒会とつながり、一緒に勉強しながら頑張りたい」と語った。

若草断酒会・会長の高橋弘昌さんが断酒会について説明。断酒会の特徴は「体験を述べること」(同じ体験をした人と向き合うこと)「家族との共同の活動」(一緒に生きていくこと)だと述べた。また、映像と音楽も紹介した。

このあと、精神科医師の小坂淳さんによる「アルコール依存症について」の講演のほか、「アルコール健康障害対策基本法について」の説明があつた。

# コリアタウンを歩く

## ならヒューライツ・セミナーがフィールドワーク

地域社会の仕組みや生活・文化を、歩きながら感じ、学習してみませんか、ならヒューライツセミナー「フィールドワーク・鶴橋、コリアンタウン」が2月13日にあった。

近鉄鶴橋駅から国際マーケットー御幸



森神社(写真)ーつるのはし史跡公園ーコリアンタウン(写真)ー班家「食工房」ー平野川ー大阪朝鮮第4初級学校ー「流れる千年」・「ヨン・カフェ」を歩いた。案内は

「ハッキョ支援ネットワーク・なら」の邵哲珍(ソ・チヨルチン)さんと、地元で活動する



文(ムン)友平さん(大阪府高麗長寿会連合会会長)。

鶴橋国際マーケットは戦時中に、空襲による火災の延焼を防ぐため鶴橋駅周辺で、数次にわたり建物の「疎開」が行われた。戦後、その空き地に闇市ができ、

## 編集後記 ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

奈良県選出の国会議員、高市早苗総務相が憲法の保障する言論・表現の自由を犯す暴言を吐き続けている。放送局が政治的公平性を欠く放送を繰り返したと判断した場合、放送法第4条を根拠に電波停止の行政処分ができるというのだ。戦争法への批判の高まりを意識し、そうした報道を牽制する狙いがある。安倍首相も菅官房長官もこの発言を擁護する。一方、当事者たるテレビ局は、この発言に反論も抗議もしない。官邸からの圧力に屈服して今春、あっさりと看板キャスターを次々と降板させる。テレビ局などのメディアは自ら報道の自由を手放し、権力に力を貸している。

その跡地に店舗が建ち並び、現在に至っている。

駅のホームに降り立つと美味しい匂いが漂ってくる。改札を出ると活気あふれる市場の風景が広がる。鶴橋本通り商店街を抜け、疎開道路ー御幸森神社へ。ここで文さんと合流。南へ5分程歩くと「つるのはし史跡公園」に。公園は整備され、石碑などもあり、案内板が設置されている。

## 民族教育を守り続けてきた朝鮮学校

コリアンタウンでは、疎開道路から平野川までの東西500mの間約120軒以上の店が並ぶ。この日も多くの買い物客や観光客で賑わっていた。真ん中辺りにある「班家 食工房」を訪ねる。文さんが戦後、見続けてきたこの街のことや、人々の生活や仕事、「差別」に抗し生きてきた話を語ってくれた。



平野川ー大阪朝鮮第4初級学校を訪れた。民族教育を守るため、多くの苦難を乗り越えてきた話は胸に突き刺さる。現在は、学校法人大阪朝鮮学園が運営。地域の人々に支えられ、多くの子どもたちが元気に通学している。

最後は、邵さんの友人、韓国料理研究家の洪貞淑ホン・ジョンスクさんの経営する店「流れる千年」と「ヨン・カフェ」(写真)を訪れた。イナンソル韓菓(仁寺洞・インサドンの伝統菓子)など、お菓子と五味茶(オミジヤチャ。苦味・酸味・甘味・塩味・辛味の五つが含まれ、その日の体調によって味が変わる不思議な茶)をいただきながら、「食と健康」について話を伺った。

## ニュースレター「人権なら」

発行:NPO法人なら人権情報センター

〒636-0223

奈良県磯城郡田原本町鍵301-1

TEL:0744-33-8585/FAX:0744-32-8833

E-mail: info@nponara.or.jp

http://www.nponara.or.jp/